

Hinemos



**Hinemos クラウド仮想化オプション  
ver.5.0**

**リリースノート**

## 目次

<b>1</b>	<b>リリース 5.0.f</b>	<b>3</b>
1.1	機能追加	3
1.2	機能改善	3
1.3	仕様変更	3
1.4	不具合改修	3
<b>2</b>	<b>リリース 5.0.e</b>	<b>3</b>
2.1	機能追加	3
2.2	機能改善	4
2.3	仕様変更	4
2.4	不具合改修	4
<b>3</b>	<b>リリース 5.0.d</b>	<b>6</b>
3.1	機能追加	6
3.2	機能改善	6
3.3	仕様変更	6
3.4	不具合改修	6
<b>4</b>	<b>リリース 5.0.c</b>	<b>7</b>
4.1	機能追加	7
4.2	機能改善	7
4.3	仕様変更	7
4.4	不具合改修	7
<b>5</b>	<b>リリース 5.0.b</b>	<b>8</b>
5.1	機能追加	8
5.2	機能改善	8
5.3	仕様変更	8
5.4	不具合改修	8

Hinemosは独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の2004年度下期オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業の委託を受けて開発しました。テーマ名は「分散ファシリティ統合マネージャの開発」です。

<http://www.ipa.go.jp/software/open/2004/result.html>

## 1 リリース 5.0.f

### 1.1 機能追加

- #3738 【AWS】新リージョンの対応  
米国東部 (オハイオ)、カナダ (中部)、欧州 (ロンドン)リージョンに対応する。

### 1.2 機能改善

なし

### 1.3 仕様変更

なし

### 1.4 不具合改修

- #3571 【共通】HTTPS(マネージャ・クライアント間)接続時にTransactionRequiredExceptionが発生する  
マネージャ、クライアント間の接続をHTTPS通信としてクラウド仮想化オプションのパーспекティブを操作すると、TransactionRequiredExceptionが発生し、正常に操作できない。
- #3691 【共通】自動検知中に例外が発生すると後続のインスタンス、ノード登録が行われない  
自動検知中に何等かの例外が発生するとインスタンス、ノード登録処理が中断されてしまい、後続のインスタンス、ノード登録が行われない。例外が発生しても自動検知を継続、および、例外が発生した際は重要度「警告」でイベント通知するように修正。
- #3706 【共通】デタッチされたディスク情報がノード情報に残される  
デタッチされたストレージの情報が、ノード情報の「デバイス - ディスク情報 - ディスク」から削除されない。
- #3714 【AWS】ストレージのクローン時に失敗する  
スナップショットからのクローン作成において以下の事象が発生する。
  1. タイプ"standard"のストレージから作成したスナップショットの場合、クローン作成時の[タイプ]に何を指定しても("standard"、"io1"、"gp2")、"standard"であるストレージが作成されてしまう。
  2. タイプ"io1"、"gp2"のストレージから作成したスナップショットの場合、クローン作成の際に「The parameter iops is not supported for standard volumes. (Service: AmazonEC2; Status Code: 400; Error Code: InvalidParameterCombination;~)」というエラーが発生して失敗する。
- #3737 【共通】仮想ディスクが自動検知ごとに一つずつしか追加されない  
自動検知において仮想マシンにアタッチした仮想ディスクの情報が一つずつしか追加されない。

## 2 リリース 5.0.e

### 2.1 機能追加

- #3564 【AWS】 ムンバイリージョンへの対応  
AWSに新たに追加されたリージョンであるムンバイリージョンに対応。

## 2.2 機能改善

- #3500 【VMware】 分散スイッチに接続した仮想NICをアタッチ・デタッチできるように改善  
仮想分散スイッチ(vSphere Distributed Switch)に対応し、標準スイッチと同様に「クラウド[ネットワーク]」ビューのネットワーク一覧にてアタッチ・デタッチできるように改善。
- #3569 【共通】 ノード登録後にHinemosエージェント自動接続できるように改善  
ノードを手動で削除したら、次の自動登録時に再度Hinemosエージェント自動接続を試みるように改善。
- #3521 【AWS】 当月以外の課金詳細も出力できるようにする  
「クラウド[クラウドスコープ]」ビューと「クラウド[課金アラート]」ビューの課金詳細情報エクスポートを「クラウド[課金詳細]」ビューの表示月と連動し、当月以外の課金詳細も出力できるように改善。
- #3590 【AWS】 AWS S3サービスへの対応  
リソース監視をAmazon Simple Storage Service(S3)サービスのCloudWatchメトリクスに対応するように改善。  
※ S3バケットを監視する場合、監視項目の追加が別途必要となります。詳しくはユーザマニュアル(第5版以降)内の監視項目追加手順をご参照ください。

## 2.3 仕様変更

- #3570 【共通】 IPアドレスが取得不可のノードのIPアドレスを169.254.0.0に変更  
自動登録では、下記ノードのIPアドレスを169.254.0.0(デフォルト)、管理対象としないように変更。
  - クラウドサービスの抽象化ノード
  - RDS、ELBなどIPアドレスが存在しないノード
  - VMware Toolsが未導入あるいは起動しておらず、IPアドレスを取得できないノード

## 2.4 不具合改修

- #3391 【AWS】 インスタンスをターミネート中に当該ノードを削除すると削除失敗のINTERNALイベントが出力される  
ノードを手動で削除してしまうとAUTOUPDATE\_NOT\_DELETE\_FACILITY関連のINTERNALイベントが出力し続ける
- #3432 【共通】 自動検知で一時的に使用するヒープサイズが大きくなり、OutOfMemoryErrorを起こす可能性がある  
リソース自動検知において、コンピュートノード毎に作成される内部オブジェクトが、一時的に肥大化してしまい、コンピュートノード数が多い場合、OutOfMemoryErrorが発生する恐れがある問題を改善した。
- #3455 【共通】 ノードの自動登録を無効化しても特定のノードがリポジトリに再登録されてしまう  
コンピュートノードの自動ノード登録を無効化しても (Hinemosプロパティhinemos.cloud.autoregist.node.instanceをoffに変更)、特定のコンピュートノードについては、当該ノードを削除した後に自動的にリポジトリへ再登録されてしまう。
- #3457 【共通】 実行不要なファイルに実行権限が与えられている  
ライブラリファイル(\*.jar)に実行権限が与えられている。
- #3464 【共通】 クラウド仮想化オプションとUtilityオプションのライブラリ競合  
クラウド仮想化オプションのインストール後にUtilityをインストールすると、Hinemosクライアント上で、「クラウド[コンピュート]」パースペクティブを開くと、"An error occurred.~"のエラーが定期的にポップアップ表示される、または、クラウド[構成ツリー]ビューの内容が表示されない。

- #3465 【VMware】 特定の仮想ホスト配下のコンピュータノードが表示されない  
仮想ホスト配下のいずれかのコンピュータノードが、仮想ディスクのバックアップ種別として仮想ディスクファイル形式以外のもの(例えば、RAWデバイスマッピング)を持っている場合、Hinemosマネージャがその仮想ホスト配下の構成ツリー情報の取得に失敗する。これにより、クラウド[コンピュータ]やクラウド[構成ツリー]等のビュー上に、その仮想ホスト配下のコンピュータノードが表示されない。
- #3468 【VMware】 分散スイッチ環境のコンピュータノードに対して構成変更などの操作ができない  
仮想分散スイッチ(vSphere Distributed Switch)に対応しておらず、仮想分散スイッチを利用した仮想環境に対して下記操作を行うと、"Client received SOAP Fault from server"のようなエラーメッセージが表示され、操作が中止される。
  - ・「クラウド[コンピュータ]」ビューにおける「スナップショット」、「作成」、「構成変更」、「クローン」ボタン
  - ・「クラウド[ネットワーク]」ビューにおける「アタッチ」、「デタッチ」ボタン
- #3473 【VMware】 リソース監視後にCPU使用率の高騰やスケジューラの遅延が発生する  
クラウド・仮想化特有のリソース値の監視が実行された後、監視対象ノード数に応じて、長時間CPU使用率が高騰する。また、監視対象ノード数が多い場合、監視等をスケジュール実行しているスレッドが停滞し、スケジューラの遅延が発生する。
- #3478 【VMware】 既存ディスクのないコンピュータノードに対してストレージをアタッチできない  
「クラウド[ストレージ]」ビューにて、既存ストレージのないコンピュータノードに対してストレージをアタッチすると、仮想デバイスのコントローラがないため、"The device 'x' is referring to a nonexisting controller 'y'"のようなエラーメッセージが表示され、ストレージのアタッチ処理に失敗する。  
なお、すでに一つ以上のストレージがアタッチされているコンピュータノードに対して さらにストレージを追加アタッチする場合は問題なくアタッチできる。
- #3491 【VMware】 コンピュータノードの作成などを行った後に処理が成功したにもかかわらず失敗ダイアログが出る  
コンピュータノードの作成やクローンなどの操作を行った後に、実際に処理が成功したにもかかわらず、タイミングによって完了結果を正しく取得できず、メッセージが「Not found created Instance」の失敗ダイアログが表示される場合がある。
- #3492 【共通】 右クリックして「マニュアル登録」を選択すると「構成変更」ダイアログが表示される  
「クラウド[コンピュータ]」ビューにてコンピュータノードを選択し、右クリックして「マニュアル登録」を選択すると、ノード登録の確認ダイアログではなく、「構成変更」ダイアログが表示される。
- #3498 【VMware】 ESXiホストサーバに対してストレージを作成できない  
「クラウド[ストレージ]」ビューにて、ESXiホストサーバに対して新しいストレージを作成すると "指定したリクエストの型は不正です"のようなエラーが表示され、処理に失敗する。  
なお、vCenterサーバの場合は事象は発生せず、問題なく作成できる。
- #3509 【AWS】 課金詳細情報と課金アラートの実行タイミングの設定が逆  
課金詳細情報の受信タイミングを制御するパラメータ「hinemos.cloud.billing.detail.collect.time」と課金アラートの実行タイミングを制御するパラメータ「hinemos.cloud.billing.detail.alarm.time」の設定が逆に動作してしまう。
- #3522 【AWS】 課金CSVの分割スクリプトの一時ファイルが残ってしまう  
課金分割スクリプトdistributeBillingCsv.pyの実行後に、tmp/配下にtmp\*-aws-billing-\*.csv.zipのようなファイルが残される。
- #3536 【AWS,VMware,Azure】 クラウド仮想化オプションを導入した環境で収集項目マスタをエクスポートできない  
クラウド仮想化オプションを導入した環境で、収集項目マスタの設定データをエクスポートすると、以下のようなエラーメッセージが表示され、エクスポート処理が失敗する。  

```
[com.clustercontrol.utility.settings.collect.action.CollectMasterAction?] 設定データをエクスポートできませんでした。
```

```
The following exception occurred while validating field: _collectorItemCodeFrame of class: com.clustercontrol.utility.settings.master.xml.CollectMasters?: ... The field '_deviceType' (whose xml name is 'deviceType') is a required field of class 'com.clustercontrol.utility.settings.master.xml.CollectorItemCodes?
```
- #3574 【共通】 課金アラート設定のタイプの誤表示  
「クラウド[課金アラート]」ビューにて、アラート設定のタイプを「確定日増分(各日)」として作成した後、「変更」ボタンをクリックして設定ダイアログを開くと、タイプが「最終確定日累積」と表示される。

- #3588 【共通】 英語版対応  
英語版のメッセージファイルに一部の翻訳メッセージが漏れている。  
また、Hinemos クラウド仮想化オプションfor VMware vSphereの英語版のSQLスクリプトの一部データに不整合があるため、英語版環境では、クラウド・仮想化特有のメトリック値を監視できない。
- #3591 【AWS】 クラウド[課金詳細]ビューでクラウドスコープIDが空欄になる  
「クラウド[課金アラート]」ビューにて課金アラートを選択して、「課金詳細表示」ボタンをクリックして課金詳細を表示した場合、クラウド[課金詳細]ビューのクラウドスコープIDの欄にクラウドスコープIDが出力されない。

## 3 リリース 5.0.d

### 3.1 機能追加

- #3195 【共通】 ノード属性値の更新に関するパラメータの追加  
自動検知における更新対象のノード属性値を制御するためのパラメータを追加。
- #3344 【AWS】 ソウルリージョンへの対応  
AWSに新たに追加されたリージョンであるソウルに対応。
- #3346 【AWS】 現行世代(2016/1時点)のインスタンスタイプを選択可能とする。  
現行世代のインスタンスタイプを新たに追加して選択可能とした。
- #3328 【共通】 Pythonインストールパスを指定可能なパラメータを追加  
コンピュータノードのパワーオン、パワーオフなどのジョブを作成した際、pyファイルの前にPythonの実行ファイルパスを指定可能とした。

### 3.2 機能改善

- #3352 【共通】 ジョブ設定ダイアログに制御ジョブが反映されない  
コンピュータノードのパワーオン、パワーオフなどのジョブを作成した後、ジョブ設定ダイアログにて更新ボタンを押下しなくても、登録したジョブが表示されるようにする。
- #3329 【VMware】 VMware Web Service SDKに関する調整可能パラメータの追加  
VMware Web Service SDKの動作に関するパラメータ(通信タイムアウト、メトリック対象期間)を追加。

### 3.3 仕様変更

なし

### 3.4 不具合改修

- #3247 【共通】 サブプラットフォームが設定されているノードのプロセス監視が正常に行われない  
サブプラットフォームにAWSなどが指定されているノードに対して、プロセス監視が正常に行われない不具合を修正した。
- #3348 【共通】 クラウドサービス監視にて1024文字を超えるステータス情報が受信できない  
クラウドサービス監視にて、取得されたステータス情報が1024文字を超える場合、ステータス情報をDBに格納できず、監視が適切に動作しない不具合を修正した。
- #3345 【AWS】 コンピュータノード生成時のポップアップメッセージに変数が格納されない  
ポップアップメッセージにコンピュータ名が格納されない不具合を修正した。



## 4 リリース 5.0.c

### 4.1 機能追加

- ・ #3220 【Reporting】クラウド仮想化オプション用のテンプレート  
クラウド仮想化オプション(AWS/VMware)のリソース監視項目および課金情報に対応するテンプレートを新たに提供。

### 4.2 機能改善

- ・ #3156 【Azure】仮想マシンを振り分けるグループIaaSおよびPaaSを追加  
クラウド仮想化（Azureコミュニティ版）にて、OSのvhdファイルを保持しない仮想マシンをPaaSグループ、保持する仮想マシンをIaaSグループとして格納するグループを作成する。
- ・ #3157 【共通】自動検知されるノードの属性値を変更可能とする  
自動検知されて登録される際、ノードに埋め込まれる属性値をHinemosプロパティとして設定可能とする。
- ・ #3232 【共通】IPアドレスが自動検知の2回目以降で反映される  
自動検知の2回目以降でIPアドレスが検知されていたが、初回ではIPアドレスが反映されるようにする。
- ・ #3164 【Azure】仮想マシンを保持しないクラウドサービスをスコープとして登録可能とする  
クラウド仮想化（Azureコミュニティ版）にて、リソース（仮想マシン）を保持しないクラウドサービスも自動検知の際にスコープとして自動登録可能とする。
- ・ #3167 【AWS】スナップショットにおいてnoRebootを指定可能とした  
クラウド仮想化（AWS商用版）のスナップショット取得APIであるsnapshotInstanceにて CreateImageRequestのnoRebootを指定可能とする。
- ・ #3170 【共通】重複するファシリティIDを保持するノードが存在した場合、自動で関連付ける  
クラウド仮想化にて、自動検知された仮想マシンに基づき生成されたファシリティIDが既にノードとして登録されていた場合、仮想マシン情報と既存のノードを関連付ける。

### 4.3 仕様変更

なし

### 4.4 不具合改修

- ・ #3155 【Azure】クラウドサービスで自動生成された仮想マシンが自動検知されない  
クラウド仮想化（Azureコミュニティ版）にて、クラウドサービスで自動生成される仮想マシンが存在する環境に対して自動検知を行った場合、自動生成された仮想マシンにて例外が発生して自動検知の処理が異常終了し、その他の仮想マシンの自動検知にも影響を与える。
- ・ #3165 【AWS】スナップショットにおいてルートデバイス以外が含まれない  
クラウド仮想化（AWSコミュニティ版）にて、仮想マシンのスナップショットを取得してもルートデバイス以外のEBSがスナップショットに含まれない。
- ・ #3166 【共通】ジョブによりパワーオンなどの制御をする場合、スコープ外のノードが制御される  
クラウド仮想化(商用版)により、スコープ対象のジョブによりパワーオン・パワーオフなどの制御を行うと、同一クラウドスコープに含まれる他のノードが制御される場合がある。
- ・ #3168 【AWS】自動検知によりプラットフォームがOTHERとなる  
クラウド仮想化（AWSコミュニティ版）にて自動検知されたE C2インスタンス、ELB、RDSのプラットフォームがOTHERに変わる。

- #3169 【VMware】 自動検知によりプラットフォームがOTHERとなる  
クラウド仮想化 (VMware) にて自動検知されたESXiおよびvCenterのプラットフォームがOTHERとなる。
- #3231 【VMware】 サスペンドジョブ (ノード単位)を実行するとパワーオフとなる  
ノード単位でのサスペンドジョブを実行した場合、ノードがサスペンドされずにパワーオフされる。
- #3227 【VMware】 サブプラットフォームIDの不一致に関する修正  
自動検知にて格納されるサブプラットフォームID(VMware vSphere)と収集項目マスタのサブプラットフォームID(vCenter/ESXi)の不一致により、自動検知されたノードに対して収集項目が設定できない。

## 5 リリース 5.0.b

### 5.1 機能追加

- #3123 【Azure】 Microsoft Azureへのコミュニティ版対応  
Microsoft Azureに対応したコミュニティ版をリリースした。

### 5.2 機能改善

- #3122 【共通】 自動検知されたノードの説明内容の修正  
RegisterやRegistと表記ゆれがあるため、Registeredに統一した。

### 5.3 仕様変更

なし

### 5.4 不具合改修

- #3096 【共通】 facility\_idのカラム型が本体と統一されていない  
facility\_idを格納するカラムが本体のvarchar(512)と異なる不具合を修正した。
- #3106 【共通】 javaが含まれていないjarファイルが存在する  
プラットフォーム固有のjarファイル内にjavaファイルが含まれていない不具合を修正した。
- #3107 【共通】 ミッションクリティカルオプションとファイル構成が競合する  
ミッションクリティカルオプションとディレクトリ・ファイルが競合する不具合を修正した。
- #3110 【共通】 rpmの再インストール時にエラーとなる  
クラウド仮想化オプションをアンインストールした後、再度インストールすると、PostgreSQLに関するエラーメッセージが出力される不具合を修正した。
- #3114 【共通】 クラウドスコープ一覧表示が最新化されない  
追加されたクラウドスコープが一覧に表示されないことがある不具合を修正した。
- #3115 【共通】 本体のws.client.addressに異なるパラメータ名が付与されている  
Hinemosプロパティws.client.addressに異なるパラメータ名common.ws.addressが付与されている不具合を修正した。
- #3116 【共通】 ロケーション配下に何も存在しない場合、エラーメッセージがログに出力される  
ロケーション配下に何も存在しない場合、エラーメッセージ(org.postgresql.util.PSQLException: ERROR: syntax error at or near ")") がログに出力される不具合を修正した。



- #3058 【AWS】リッチクライアントインストール後にクラウド関連の操作ができない  
クラウド仮想化（AWSコミュニティ版）のリッチクライアントで、クラウド関連の操作を行なおうとしても実行できない不具合を修正した。
- #3117 【AWS】 en\_aws\_ebs\_metrics.sqlにてエラーとなる  
インストール時にen\_aws\_ebs\_metrics.sql:131にてエラーとなる不具合を修正した。

#### Hinemos クラウド仮想化オプション リリースノート

##### 非売品

- 禁無断複製
- 禁無断転載
- 禁無断再配布

Hinemosは（株）NTTデータの登録商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中にはTM、Rマークは表記しておりません。